

# 第1回 学校運営協議会 議事録

- 1 日時 令和5年5月26日(金) 午前10時から正午まで  
2 会場 静岡県立吉田特別支援学校会議室  
3 参加者

○委員

【保護者】	畑 和幸 様	PTA会長
【地域住民】	桐田不二雄 様	吉田町片岡区自治会長(書面)
【学校運営に資する活動者】	藁科 知行 様	駿遠学園管理組合園長(オンライン)
【学識経験者】	横山 孝子 様	浜松学院大学教授
【その他】	栗林 均 様	社会福祉法人一羊会理事長(書面)

○学校

校長	稲葉 敏光	副校長	池上 千穂	事務長	土戸 美樹
教頭	松本比呂美	分教室教頭	小澤真由美	小学部主事	井鍋 恭子
中学部主事	菅野 圭	高等部主事	田中 康暁	肢体訪問統括	山本 由希
教務主任	和田加恵子	コーディネーター	紅林 亜朋		

4 議事録 \*司)司会 委)委員 学)学校職員

(1) 校長挨拶

明日は大きな制限なく運動会を開催する予定でいる。先週は、分教室でスポーツフェスティバルが行われた。応援があると、子ども達はより多くの力を発揮できるという姿を目の当たりにした。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したため、新しい形も模索しながら、今後の学校運営を考えていきたい。

(2)委員紹介

(3)職員紹介

(4)趣旨説明

(5)会長及び副会長選出



## (6)協議

### ア 令和5年度学校運営方針について

学) 教育理念は「つながり合い、学び合う」、学校教育目標は「夢に向かって『いきいき、なかよく、すこやかに』学び、伸びゆく人」である。

目標具現化の柱の一つ目は、【安心・安全】である。特に、教員の対応力向上を重点とする。救急搬送やトラブル等が起きても、冷静に考え迅速に対応できる力の向上を目指す。また、教職員にとって働きやすい環境づくりも大切にする。特別支援学校は、小中学校に比べて精神疾患での休職の割合が多くなっている。本校では今年度より、水曜日を14時10分下校とし、放課後の授業準備時間を1時間多く確保した。児童生徒への指導の質の向上にもつながると考える。

柱の二つ目は、【授業】である。特に、12年間の成長のつながりを見通した教育課程の見直しを行う。今年度は、開校10年目に向けて、小学部から高等部までどのような子を育てていくか見直す時期であると考え。そのために、グランドデザインにあるように各学年で願う姿を掲げ、実践していく。また、ICT教育に対する理解向上にも重点を置く。昨年度からICTに関する県の研究指定を受けている。日常生活での活用を見据え、授業の中での効果的な使い方を模索している所である。

三つ目の柱は【連携】である。コミュニティ・スクールの実施については、今年度が三年目の節目となる。つながりを大切にした取り組みができるようにしていきたい。また、キャリア教育の充実についても重点を置く。小さいうちから、自己選択、自己決定する力を育てていくことで、自己実現ができることを目指す。

学) 【小学部、中学部、高等部、肢体訪問の取組について説明】

学) 【駿遠分教室の取組について説明】

委) 各学年で目指す姿が明らかになっている。文言が良く練られていて、生活単元学習、作業学習などの合わせた指導の目標にも生かしやすい。

令和の日本型学校教育として、個別最適な学び、協働的な学び、と言われている。個別最適な学びは、知的障害教育では従来から取り組んできている。協働的な学びは、思いを持って他者とやり取りして深める、ということである。こちらも取り組んできている。また、地域との協働や連携が大切とも言われているが、吉田特支は十分にやれている。このまま続けていくと良い。

ICTは、子どもが文房具として使うという面、理解を深めるツールとしての面、活動の支援ができるという面がある。これらの住み分けをして考えていくことが必要になるだろう。ただ、ICTを使うことによって学ぶべきことを見落とす可能性がある点を押さえておきたい。計算で考えると分かりやすい。バーコード決済により、ワンタッチで支払いができ、いくらお金を出すかという計算をしなくても何とかなる。

しかし、その計算を学ばなくてよいのか、ということである。

委) ICTは今ではどの家庭にもある。話題の生成AIのようにすぐに答えを出してくれるものもある。大人も自分で考えられなくなってきている中で、図書について経営計画に明記されている点が評価できる。読書により想像力を高めたり考えたりすることが大切だと思うが、自分で読めないお子さんにはどうするのか。

学) 読み聞かせボランティアによる「お話の会」がある。聞く、見ることも読書である。日常的に教員が読み聞かせをする機会もある。

#### イ コミュニティ・スクールの取組について

学) ボランティア先生の活動が、三年目になった。授業前の打ち合わせでは、前時までの学習の様子を伝えると、「こうしたらどうだろう」等のアイデアをいただけるようになった。原則的に三年で一区切りとしているため、来年度に向けて新たなボランティア先生をお願いする年でもある。

委) 継続的に取り組んできたことで、教育課程の一つになっているだろう。ボランティア先生や担当教員が変わってもできる仕組みが整っているのではないか。

委) とてもよい取り組みだと思う。できればホームページなどで見る機会もあるといい。

学) ホームページ更新が円滑にできるよう、記事をアップする仕組みを整えた。たくさん発信できるようにしたい。

学) いただいた御意見は、今年度の教育活動に生かしていくよう教職員一同で共有する。